

# 牛久：学校周辺に見る自然

第44号 ひたち野うしく小

2020年11月28日発行

## ＜ 秋のみずべ公園 ～③ハナアブ・ハエのなかま ＞

ひたち野うしく小4年生と歩いた秋のみずべ公園、今回はハナアブやハエのなかまです。



ウシハコベ（左）とミゾソバ（右）に来た、ホソヒラタアブ。ハチに似ているが、ハエに近いハナアブのなかま。



春にはヒキガエルのおたまじやくしでまっ黒になる池のほとりで、ミゾソバやウシハコベ、ハッカなどが咲きみだれていました。それらの花粉や蜜を求めてたくさんのチョウやハナアブ類が来ていましたが、大部分はセセリチョウのなかまとホソヒラタアブでした。ハナアブ類はハチに似ていますが、ハエに近いなかま。口も、なめる口です。カタバミの花粉をなめる、ホソヒラタアブ。



ヒラタアブ類のさなぎ。 同じ種類かどうかは分かりません。



ススキなどの葉には、あちこちでさなぎがついていました。このなかまのさなぎはよく似ているようで、見わかる図鑑もないので同じ種類なのかどうかは分かりません。

ミゾソバには、ハエのなかまも数種類来ていました。やはり、なめる口です。羽は2枚、複眼が大きく、触角はとても短い。ハナアブ類と共通の特徴です。

【理科支援員：宮内】

ミゾソバの花粉をなめるハエ（左）。